

フセイン元大統領を拘束

米、戦争の目的達成

【バグダッド14日共同】及川仁「イラク統治評議会によると、イラクを占領下に置く米軍当局は十三日、米軍のバグダッド制圧以降、八カ月以上も行方不明となっていたイラクのサダム・フセイン元大統領（66）をイラク北部のティクリットで生きたまま拘束した。



14日、連合軍暫定当局の記者会見で公開された、拘束されたフセイン元大統領の映像（CNN・サン共同）

フセイン政権はバグダッド陥落とともに既に崩壊したが、元大統領の息子二人の死亡に続き、元大統領を拘束したことで、米英軍はフセイン政権の完全排除というイラク戦争の最大の目的を達成した。

フセイン政権崩壊後も駐留米軍へのゲリラ的な攻撃を繰り返し、占領統治への抵抗を続ける旧政権の残存勢力にとつて、元大統領の拘束は一定の打撃となりそ

うだ。米軍政当局はイラクの治安確保、戦後復興を全力で進める考えだ。イラクでは、フセイン政権崩壊後も、大量破壊兵器開発の証拠は見つかつておらず、同兵器の廃棄をイラク戦争の大義に掲げてきた米国が、その実態を解明できるかどうか今後の焦点となる。

イラク人の暫定統治機関、統治評議会は、元大統領らフセイン政権幹部を裁く戦犯法廷の設置で合意。米政府内でも、イラク人判事による特別法廷を設置して人道に対する罪などで裁判にかける方針が有力だ。米軍の手配を受け、逃走中のフセイン政権幹部もまだ残っており、米軍は地域を絞り込んで捜索を続ける。